

横平鐵山、宮崎縣大吹鐵山等ハ事業ヲ休止シ岐阜縣長島鐵山ハ獨立シテ稼業シ得サル窮地ニ陥レリ但シ兵庫縣生野鐵山ニ於テハ砒礆製鍊設備ヲ増設シタルモ之レカ爲ニ増産ヲ見ス又銅或ハ鉛製鍊ノ副產物トシテ亞砒酸ヲ回收スル朽木縣足尾鐵山、岐阜縣神岡鐵山ニ於テハ比較的其影響ヲ受ケスシテ產額ハ前年ト大差ナシ只岩手縣甲子鐵山ニテ亞砒酸製鍊ヲ開始セルハ稍注目ニ値スヘシ

●**燐鐵業** 市價稍順調ニアル爲メ沖繩縣ラサ島鐵山ハ事業ノ擴張ヲ行ヒ橋口鐵山ハ採鍊ヲ開始シ北大東島鐵山ト共ニ何レモ產額ヲ増加セリ

●**石炭鐵業** 北海道ニ於ケル本鐵業ハ年初ニ當リ炭鐵業者カ生產費ノ低減ヲ圖ル爲極力出炭ニ努メタル結果前年ヨリ増産ヲ見タルモ之レカ消化ノ途ナク貯炭ハ月ト共ニ増加シ生產ノ過剩ハ自然市場ノ競争ヲ惹起シテ炭價ハ需要ノ不振ト相俟テ歐洲大戰後初テノ安値ヲ現出セリ、常磐地方ニ在リテハ一般石炭需要ノ減退ト船運賃ノ低廉ハ北海道、九州遠クハ撫順炭ノ移輸入ヲ促シ爲メニ販路ヲ蠶食セラレ炭價益々低落シ之レカ對策トシテ各炭山ノ多量生產トナリ貯炭ノ止ムナキニ至レリ、九州地方ニ於テハ年初船舶ノ來往頻繁ニシテ一時稍活況ヲ呈セシモ軀テ夏枯期ニ加ヘ支那排外動亂ノ影響ヲ受ケテ海外輸出漸次不振トナリ一般ニ需要ヲ減少スルニ至レリ而シテ炭業者ハ生產費ノ低下ヲ圖ル爲極力増産ニ努メタル結果益々需給ノ均衡ヲ缺キ稀有ノ貯炭ヲ藏スルニ至リ而カモ撫順炭及北海道炭ノ割込ハ其買氣ヲ挫キシカ偶々奉直戰ノ餘波ヲ受ケ開平炭ノ上海方面ヘノ移入ヲ杜絶シ又撫順炭ノ輸入減少等ノ強氣材料アリシモ以テ市況ヲ恢復スルニ至ラス年末需要期ニ向ヒタルモ尙貯炭ノ處分ニ焦慮スルノ狀態ナリキ、要スルニ本年ニ於ケル石炭鐵業ハ炭價依然軟調ナルニヨリ各山ハ生產費ノ低減ヲ圖ル爲競フテ出炭ノ増加ニ努メタルカ其結果ハ愈々需給ノ平衡ヲ失シテ貯炭増加トナリ而カモ金融ハ依然逼塞ノ狀態ニ在リタル爲投資ヲ爲スモノ多ク炭價ハ漸落ノ徑路ヲ辿リ炭山ノ事業ヲ縮小シ又ハ休止スルモノ續出スルニ至レリ

●**亞炭鐵業** 亞炭鐵業ハ石炭市價ノ下落ニ伴ヒ需要著シク減退シ相當悲境ニ陥レリ從テ鐵產額ノ如キモ群馬縣田島炭礦、愛知縣愛知炭礦、新居炭礦、平子炭礦、尾北炭礦、高針炭礦、岐阜縣新木野炭礦、御村炭礦ニ於テ新坑開鑿或ハ採炭區域ノ擴大ニヨリ増産シタル以外ハ一般ニ減産ヲ見タリ

●**石油鐵業** 海外ヨリ安價ナル石油ノ過剩ニ輸入セラレタルニヨリ市價ハ下落ニ次クニ下落ヲ以テシ、本年中ノ本鐵業ハ依然不況ヲ免レサリキ、新潟、秋田兩縣下ニ於ケル從來ノ淺層探油井ハ漸次老境ニ入り產油ノ自然減少ヲ來タセルカ一方銳意新方面ノ開發既掘油田ニ於ケル改修、深層ノ探究ニ努メ其結果見ルヘキモノアリ秋田縣道川鐵山ニ於テハ事業ヲ擴張シテ増産シ同縣小國鐵山ハ試掘井ニ成功シ、新潟縣西山鐵山ハ豐富ナル新深油層ノ發見ト試掘地ノ開發ニヨリ前年ニ比シ何レモ著シク増産ヲ示セリ、北海道方面ニ在リテモ本鐵業ハ未タ初期ナカラ相當ノ成績ヲ舉ケ就中石狩石油山ハ着々成功シテ前年ヨリ九割ノ増産ヲ見タリ、只北海道ノ増幌鐵山カ不慮ノ障害ニヨリ又秋田縣黒川、豊川、由利、岩瀬及小倉豊川ノ各鐵山ニ於テ自然減退ニ基キ何レモ產油ノ減少セルハ遺憾ナリ

製油方面ニ於テハ日本石油株式會社附屬製油所ハ製油設備殆ント完成シ而カモ原料油ノ供給潤澤ナリシモ市場不況ニシテ製油能力ヲ發揮シ得ス、旭石油株式會社徳山製油所及西戶崎製油所ニ於テハ原油ヲ南洋ニ求メテ製油シツ、アルカ前年ヨリ二割七分ヲ減産セリ

(二) 操業方法及設備ノ概況

●**探鍊** 金屬山ハ概シテ稍好況ノ機運ニ在リタル爲探鍊ハ盛ニ行ハレ新ニ鑛床ヲ發見シタルモノ或ハ從來ヨリ探掘セル鑛床中ニ於テ富鑛部分ヲ開發セルモノ尠カラス其主要ナルモノヲ舉クレハ

鑛山名

府縣又
ハ國名

記

事

阿 仁

秋 田

大正坑内ニ於テ新ニ一號ヨリ六號ニ至ル數脈發見就中六號鑛ハ鑛況特ニ優良ナリ

水 澤

岩 手

川手下磐舊堅入ハ川手五號鑛ニ着鑛鑛況良好ナリ

平ノ松

同

龍澤本鑛斷層下底ノ堅入ニ依リ品位優良ナル一富鑛帶ヲ發見セリ

釜 石

同

八段堅入坑道開鑿着鑛セリ

大 谷

新 潟

豊國中切堅入ハ約九百尺ニテ豊國鑛ニ着鑛下坑道トノ中段ニ優良ナル鑛體ヲ發見セリ又
眞名、板倉鑛ハ第三中段ニ於テ富鑛部ニ逢着セリ

足 尾

枋 木

下二出會三百尺河鹿ノ上部ハ探鑛ノ結果既在出會三百尺河鹿ノ一部ト連絡合體シ下部發
展ノ傾向アリ尙同河鹿下四番坑地並ニ於テモ富鑛部ヲ發見セリ又光盛河鹿ハ下五番坑地
並ニ於テ優良ナル鑛體ヲ發見セリ

天 頂

同

二號本鑛押ニ依リテ二尺乃至三尺ノ鑛脈ノ存在ヲ確認セリ

尾 小 屋

石 川

本舖地並ニ於テ五十谷新脈發見鑛巾平均二尺銅品位三%内外ナリ山崎脈ハ本舖地並ニテ
着鑛巾八尺銅品位四%内外ナリ

生 野

兵 庫

金香瀨富鑛帶ハ四番坑地五番坑地並ニ於テ益々優良ナリ又蟹谷鑛ハ金香瀨五番坑地並ヨ
リ堅入ニヨリテ脈巾七米以上ノ大鑛體ニ逢着セリ

竹 野

同

七坑ハ二千百尺ニシテ本鑛ニ逢着鑛巾十尺鑛況上部ト變ラス

沖之浦

同

本鑛上磐側ニ巾平均十尺餘ノ新鑛脈ヲ發見ス

高 越

德 島

第二通洞準以下二百二十尺ニ於ケル富鑛部探鑛ハ前年來尙續行中ナリシカ本年度ニ入リ
走向延長八百尺傾斜延長二百五十尺厚サ平均十五尺ニ達スル事ヲ確認セリ

大 峰

愛 媛

前年發見ノ鑛帶ハ本年ニ入り全ク新鑛床ナル事ヲ確メ松鑛ト稱シ巾一尺品位銅五%内外
ナリ

佐々連

同

大切坑下五十尺地並ニ巾八尺ノ有望ナル鑛體ヲ發見セリ

槇 峰

宮 崎

金剛石試錐ニヨリ走向延長六十尺ニ亘リ大小五條ノ鑛體ヲ發見シ品位良好ナリ

赤 石

鹿兒島

從來探掘シタル鑛脈ヨリ下磐ニ五十尺ヲ隔リタル平行鑛脈ヲ發見セリ

此外北見國雄武威鑛山ハ東坑舊堅坑ノ掘下西坑及南坑ノ横坑ノ開鑿ヲ開始シ膽振國洞爺鑛山ハ鑛床ノ確立及單獨鑛體存在
ノ確定ノ爲メ第二坑道及堅入坑道ヲ開坑シ後志國蘆鑛山及北見國鴻ノ舞鑛山ハ何レモ鑛押及堅入坑道ヲ以テ探鑛續行中ナ
リ德島縣久宗鑛山ハ大切坑道内ヨリ堅入坑道開鑿中ナリ尙枋木縣足尾鑛山ニ於テハ新ニ鑿岩深孔試錐機ヲ採用探鑛シ良好
ノ成績ヲ收メ得タルト愛媛縣別子銅山ニ於ケル「スエデン」式手動金剛石試錐ニ依リ露頭部ヨリ試錐ヲ開始セル同縣金山
鑛山ニ於ケル電氣探鑛法ニヨル探鑛ノ開始ハ共ニ注目スヘキモノトス

石炭山ニ於テハ試錐ニヨリテ炭層ヲ探ラントスルモノ或ハ新ニ斜坑ヲ開鑿シ若クハ掘進セントスルモノ尠シトセス其主ナ

ルモノヲ舉クレハ

鑛山名

府縣又
ハ國名

記

事

歌 志 内

石 狩

四坑道實車線堅入坑道着炭

茂尻光

同

萬慶斜坑與萬慶第一斜坑右四片七番層堅入何レモ着炭

光	珠	石	狩	第二水平五番層坑及三番層坑着炭
奔	別	同	同	磐ノ澤坑外ニ松尾式試錐ヲ行ヒ約百尺ニシテ七尺層ニ着炭
萬	字	同	同	西厚澤上流ニ於テ試錐探鑛中ナリ
好	間	福	島	新斜坑ヲ開鑿シ探鑛豫定區ニ存スル上下兩炭層ノ間隔各層ノ厚、炭質並ニ含水石炭層ノ有無等探査ノ目的ヲ以テ人道右探鑛坑道ヨリ十七本ノ坑内試錐ヲ試ミタリ
入	山	同	同	斷層先探鑛ノ目的ヲ以テ第五坑坑内ヨリ笑堂斷層ニ向ヒ掘進ヲ開始セリ
湯	本	同	同	電又卸堅入掘進ノ結果斷層ヲ破リテ着炭セリ
大	嶺	無	煙	山口
若	山	同	同	試錐ニヨリ下層炭ノ下二十尺ニ存在スル最下層炭ノ稍稼業ニ堪ユル事ヲ發見シ尙其下六百五十尺ニアル藤ヶ河内層ノ辛シテ稼業シ得ル事ヲ確認セリ
妻	崎	同	同	調査ノ結果地表ヨリ四十五尺乃至六十尺ノ所ニ新炭層ヲ發見セリ
木	屋	ノ	瀬	鑛區内殆ント全部ニ亘リ七甲炭ノ存在スルヲ確認セリ
新	入	同	同	宮ノ下上段層ノ上部三十四尺ノ所ニ一尺五寸ノ劣等炭ヲ發見セリ
大	峰	同	同	新入村大字新入ニ於テ七ヘタ層探鑛ニ着手セリ
峰	地	同	同	試錐ニヨリ三尺四尺炭層鑛區ノ大半ニ亘リ存在スルヲ確認セリ
鎮	西	同	同	試錐ニヨリ新八尺炭尺無尺三尺炭上五尺炭ノ存在佳良ナルヲ確メタリ
高	田	同	同	試錐ニヨリ新五尺層ノ直下ニ新炭戸ヲ發見セリ
				昨年來繼續中ノ大斷層先二組層ヘノ掘進ハ本年未漸ク着炭セリ

石油山ニ在リテハ上總掘、綱掘、又ハ「ロータリー」式ニ依リ銳意新方面ノ開發及深層探究ニ努メ其業績見ルヘキモノアリ

鑛山名 府縣又ハ國名

記

事

由 利

秋 田

勝手及其東翼ノ綱式及「ロ式」深層鑛井成功シ雪川方面ノ上總式綱式法ニ依ル淺層掘鑛ニモ亦成功セリ

中野小國

同

深層鑛井ニテ稍效果ヲ收メ得タリ

大日本小國

同

同上

西 山

新 潟

本鑛區最南部瀧谷地内ニ於ケル約七百間ノ深層試錐ハ成功シ日産二百乃至三百石ノ自噴ヲ見、本油田ニ於ケル深層油ノ存在ヲ確認スルヲ得タリ依テ鎌田方面ニ在リテモ深層ヲ探掘センタメ千間掘ノ計劃ヲ立テ目下掘進中ナリ

大 面

同

本鑛區ノ東北部ニ於テ試掘セル第二十五及第二十六號井ハ深度五百五十間ニテ日産四十石乃至七十石ノ採油ヲ得此部分ノ有望ナルヲ確メタリ

高 町

同

本年二月掘鑛ニ着手シタル第二號井ハ深度四百九十七間ニシテ俄然瓦斯ノ大噴出ニ會シ掘進繼續不能ニ陷レルモ此方面ニ一大油座ノ存在スル事ヲ確メ得タリ

右ノ外石狩國石狩鑛山、膽振國厚真鑛山、振老鑛山、天鹽國増幌鑛山ハ各成功井ヲ得石狩國望來鑛山、雜魚澤鑛山、天鹽國試登一九七一號及上聲間等ノ各山試錐續行中ナリ

●探鑛方法 從來ノ手掘ヲ廢シ鑛岩機ヲ使用スルモノ益々多ク兵庫縣竹野鑛山ハ全部、沖ノ浦鑛山ハ八分通り機械掘ニ改

メ尙島根縣笹ヶ谷岡山縣三原德島縣久宗ノ諸鑛山ハ之カ使用ヲ開始セリ、岩手縣土畑鑛山ニテハ大塊ヲ成セル網狀鑛床ニ對スル探鑛法トシテ新ニ「アンダーカットケービング」法ヲ採用シ已ニ其準備ニ着手セリ
石炭山ニ在リテハ長壁法ノ應用益々廣ク長壁法モ昇向ヨリ漸次行拂式ニ改良セラレツ、アリ、探掘跡ニ灑砂充填法ヲ採用スルモノ亦漸次増加スルニ至レリ其主要ナルモノヲ列記スレハ次ノ如シ

鑛山名 縣名又ハ國名 記 事

夕張 石狩 灑砂充填ハ其試驗期ヲ終リ設備ノ擴張ニ着手セリ
新夕張 同 灑砂充填ヲ開始シ平安坑ニテ「ホリゾンタルスライス」式探炭法試驗中ナリ
海老津 福岡 從來ノ昇拂長壁式ヲ前進式ニ改善シ成績良好ナリ
大之浦 同 一、二、三、四、五、六、各坑ノ既定ノ土砂充填探掘法ヲ順調ニ發展セシメ三坑及五坑ノ探炭切端ニ「ローラーコンベヤー」ヲ使用セリ
第二旭 同 殘柱式ヲ長壁式ニ改メタリ
久原 同 片磐間四十乃至五十間ノ昇拂長壁法ヲ片磐間二十七間ノ行拂長壁式ニ變更セリ
崎戸 長崎 福浦坑四尺五尺ノ硃先右九片及又卸方面ニテ總拂式探炭法ヲ採用セリ
●壓氣機鑿岩機、截炭機 坑道ノ掘進ノミナラス探鑛作業ニ於テモ近時機械力ノ應用益盛トナルノ傾向アリ即チ本年度ニ於テ壓氣機鑿岩機並ニ截炭機ノ新設又ハ増設ヲナセルモノ左ノ如シ

鑛山名		縣名又 國名		壓氣機		鑿岩機又ハ截炭機		備考	
名	稱	馬力	臺數	名	稱	馬力	臺數		

美 唄 石 狩	サリバン型	五〇	三	ジャックハンマーBAR三三	三〇	五	
三井砂川 同	インガソールランドER一型	一〇〇	一	サリバン型截炭機		三	
夕張 同	サリバン型電力二聯式及複消コーリス型	三六〇	一	ジャックハンマーBAR三三		一六	
萬字 同	同	九〇	一	サリバンDP三三		一	
萬字美流渡 同	インガソールランドER一型	五〇	一	ジャックハンマーBAR三三		一	新設
幌内 同	ウエスチングハウス型	二〇〇	一	サリバン横型截炭機	三〇	二	
空知 同	インガソールランドER一型	五〇	二	ジャックハンマーBAR三三		一六	二五〇蒸氣ヲ改造
鴻ノ舞 北見	同	三〇	二	GBD二五〇型電氣鑿岩機		一	鑿岩機ハ新設ナリ
松尾 岩手	サリバンWG六	二五	二	デンバーモデル九三		一	新設
網取 同				サリバンDP三三一		五	同
				ライナーインガソールBC二一		一	同
				ジャックハンマー		一	同

大谷	花岡	荒川	阿仁	高玉	好間	内郷	赤根	足尾	生野
新瀨	秋田	同	同	同	同	同	馬	木	兵庫
サ リ バ ン W D 六			日 立 製 E R 一 型				サ リ バ W G 六	リ ア ル ガ ソ ー ル ラ ン ド イ ン ペ	
五〇			五	三〇					
ライナーインガゾール	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設

明延	竹野	沖浦	三浦	久宗	高越	三原	別子	佐々	沖見	沖山	大浦	豊岡
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
インガソールランドシング ルステイデ	インガソールランド	インガソールランド	インガソールランド	三 A 型	サ リ バ ン W G 六 單 氣 笛	インガソールランド	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
七五	一三〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
ライナーインガゾール	ライナーインガゾール	ライナーインガゾール	ライナーインガゾール	ライナーインガゾール	ライナーインガゾール	ライナーインガゾール	ライナーインガゾール	ライナーインガゾール	ライナーインガゾール	ライナーインガゾール	ライナーインガゾール	ライナーインガゾール
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設

新設

モノ多シ其主ナルモノ左ノ如シ

考

軌條延長一六三〇尺軌重二〇封度軌距五〇
糶、機關車坑外ト共用ナリ

[illegible][illegible]

從來三隔坑斜卸ノ一〇馬力ノモノヲ變更セリ
但一〇〇(一)ハ一五〇馬力ノモノヲ、二〇〇
(一)ハ一〇〇馬力ノモノヲ變更セリ
一五〇馬力ノモノハ右又自轉昇ノ五〇馬力ノ
モノヲ變更セリ
四〇馬力ノモノハ第一坑口二〇馬力ヲ變更セ
リ
一二時
一三時ヲ一四時ニ變更
四〇馬力ヲ變更セリ
一〇〇馬力ノモノハ從來ノ六〇馬力ノモノヲ
變更
一五馬力ヲ變更

[illegible]

延長六二〇尺

ルモノ左ノ如シ

空矢

此外新潟縣大谷鑛山ニ於テハ自動索道ヲ、群馬縣試登第一〇七〇號及新潟縣試登第七八七五號ニテハ單線式架空索道ヲ架設シ茨城縣日立鑛山ニ於テハ製鍊場石灰石採取場間ニ電車軌道ヲ敷設シ山口縣沖見初及沖ノ山炭礦ニテハ何レモ坑外運炭棧橋ノ延長或ハ改造ヲ行ヘリ

●排水設備 坑内ノ發展ニ伴フ湧水量増加ノ爲唧筒ノ新設若クハ改廢セルモノ尠カラス殊ニ磐城地方ノ主要炭礦ニ於テハ前年數次ノ水災ニ鑑ミ益々排水設備ノ充實ヲ計リ更ニ採炭區域ヲ數區ニ劃シ各區連絡道ニハ堅固ナル防水「ダム」ヲ設置スルノ方針ニ入ラントスル傾向アルハ特ニ注目ニ値ス本年度ニ唧筒ヲ設置シタルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

[illegible]

一〇〇(四)ハ七十二馬力ノモノヲ變更

舊芳谷二坑ノポンプハ撤廢
左八片上添ポンプハ廢止

●通風設備 坑内ノ發展及採鑛方法ノ改良ニ伴ヒ風道ノ開鑿扇風機ノ増設等通風方法ノ改善ニ努メタルモノ多シ本年度ニ扇風機ヲ設置セルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

高松二坑	沖山	沖見初山	新木野岐	茨城無煙炭	足尾柄木	入山	内郷	好問	湯本	王城第	奔別	茂尻	三井砂	空知	幾春別	新夕張	夕張	鑛山名
福岡	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	府縣名又ハ國名
岡	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	種
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	類
ブ ロ ア 型	同	ロ イ カ ル	ガ イ ス レ ル	チ ヤ ン ビ オ ン	シ ロ ツ コ	シ ロ ツ コ	シ ロ ツ コ	シ ロ ツ コ	シ ロ ツ コ	ロ イ カ ル フ ア ン	シ ロ ツ コ	シ ロ ツ コ	デ ス ク	シ ロ ツ コ	チ ヤ ン ビ オ ン	シ ロ ツ コ	チ ヤ ン ビ オ ン イ ン レ ッ ト	樣式
一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	馬力
八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	排氣量
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	臺數
備考																		

[illegible]

●選鑛 貧鑛ノ處理、遺利ノ回收及生産費ノ低減等ノ爲選鑛設備ノ創設改善又ハ擴張ヲナスモノ尠カラス其主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

鑛山名

又府縣名
八國名

記

事

土
烟

岩
手

前年起工中ノ浮游選鑛場竣成シ尙更ニ篩別場ヲ増設セリ

綱
取

同

選鑛設備擴張セリ
選鑛場新設

水澤

同

高田

宮城

前年來工事中ノ浮游選鑛場竣成

不老倉 秋田 選鑛場新設一ヶ月處理粗鑛百二十萬貫
日坂 山形 同 一ヶ月處理粗鑛十五萬貫
足尾 枋木 亞鉛鑛選鑛場新設一ヶ月粗鑛三百九十噸ヲ處理シ百二十噸内外ノ精鑛ヲ得
生野 兵庫 亞鉛精鑛ヲ目的トスル浮游選鑛場新設工事中一ヶ月處理粗鑛二千三百噸精鑛五百五十噸
ノ豫定

鉛山 和歌山 磁力選鑛法ニ依ル選鑛場開設一ヶ月處理粗鑛三萬貫

別子 愛媛 建設中ナリシ新居濱選鑛場竣成

佐々連 同 簡單ナル選鑛設備ヲ新設セリ

笹ヶ谷 島根 浮游選鑛法ニ依ル選鑛場開設一ヶ月處理粗鑛十萬貫

●選炭 選炭ノ精粗ハ直ニ市場ニ於ケル影響大ニシテ而モ各炭礦ニ於ケル優良炭ハ漸次減少シツツアル結果益々選炭ノ必要加ハリ本年度ニ於テモ從來ノ設備ヲ擴張改善スルモノ手選ヲ機械力ニ改ムルモノ或ハ水洗設備ヲ新設スルモノ等甚タ多シ其主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

鑛山名

府縣名
又ハ國名

記

事

雄別 釧路

共益社式水洗機一臺小塊粉炭水選用トシテ新設

春探 同

機械選炭場新設能力一時間五〇噸

彌生 石狩

洗炭設備ヲ改善シ共益社式水洗機一臺ヲ設置セリ

唐松 同

水洗炭場ヲ新設

湯本 福島

選炭機ヲ増設

入山 同

新ニ淘跳機ヲ用ヒ粉炭水洗ヲ開始シ成績優良ナリ

大嶺無煙 山口

共益社式水洗機（一時間能力二五噸）一臺新設廣谷式第三號型粉碎機（每時五噸）増設

沖見初 同

動搖式選炭機及塊炭ノ水洗機増設

海老津 福岡

選炭機一臺及粉炭用選炭機一臺ヲ竣工シ運轉ヲ開始セツ

三笠 同

二坑選炭場ニ水洗設備及粉碎機ヲ増設セリ

中鶴 同

每時能力六十噸ノ「ジツカー」式水洗機一臺増設

大隈 同

小塊及紛炭用水洗機ヲ新設

大辻 同

水洗裝置改良ノ爲共益社式水洗機（三五噸二臺三〇噸一臺）三臺設置工事略完成

新入 同

一坑及六坑ノ各選炭場ニ粉炭水洗機一臺宛増設

大ノ浦 同

一坑選炭場ニ共益社式水洗機每時三〇噸及一〇噸各一臺宛、第三坑選炭場ニ同式三〇噸

起行小松 同

共益社式水洗機（三五噸）一臺新設

御徳 同

「ジツガー」式水洗機三臺、手選帶一臺其他ヨリ成ル選炭場ヲ新設

赤池 同

每時三〇噸ノ「バウム」式水洗機一臺増設

大峰 同

每時四〇噸ノ共益社式水洗機ヲ設置

餘田	福岡	五坑ニ選炭機及「ジツガー」式粉炭水洗機各二臺ヲ設置
相田	同	毎時二五噸ノ共益社式再洗機及同上五噸ノ再洗機、「ロール」式碎炭機各一臺設置
三井山野	同	五坑及新五坑產出石炭選別ノ爲選炭機ヲ増設
飯塚	同	毎時四〇噸水洗機二臺同一五噸一臺及毎時五十噸ノ選炭機一臺ヲ新設
中山田	同	第三坑ニ毎時五噸水洗機新設
上山田	同	一坑「ブラッケット」粉炭水洗機ヲ「ジツガー」式ト取替ヘタリ
大谷	同	從來ノ手選ヲ廢シ毎時一五噸共益社式水洗機「ジンマースクリーン」及「コンベヤー」等ヨリ成ル機械選炭ニ改善シタリ
三池	同	宮浦坑ニ選炭機三臺ヲ増設シ舊選炭機二臺ヲ廢セリ
佐賀	佐賀	第三號選炭機ヲ増設セリ
杵島	同	第二坑ニ中塊用「ジツガー」式（毎時八噸）四臺粉炭用「ジツガー」式（毎時二〇噸）三臺増設
住友大瀬	長崎	「バウム」式水洗機（毎時二五噸）増設
旭	熊本	共益社式水洗機（毎時五噸）新設
赤石	鹿児島	三馬力「クラッシュヤー」一臺新設

●製鍊 本年度中製鍊設備ノ改修或ハ擴張ヲナシタルモノ左ノ如シ

鑛山名

府縣名
又國名

記

事

鴻ノ舞 北見

汞化法ヲ廢シ青化法ニ變更又十本立搗鑛機一臺増設

大正 青森

製鍊ヲ再開シ設備ハ從來ノモノ其儘ナリ

小坂 秋田

燒鑛場ノ改修ヲ行ヒ大型燒鑛鍋三臺ヲ廢シ小型燒結鍋二臺並ニ「グリーンワルト」燒鑛機二臺ニ替ヘ更ニ一號熔鑛爐ノ改造ニ着手セリ

尾去澤 秋田

工事中ナリシ鹽基性轉爐ハ殆ト竣成シ更ニ小型燒結鍋二臺ヲ増設セリ

高田 宮城

前年擴張工事中ナリシ亞鉛製鍊場ハ既ニ完成シ濾過機増設工事中

釜石 岩手

前年起工セル「コッパース」式骸炭爐三十基ハ完成シ又從來休止中ナリシ第八高爐ノ改修ヲ了シ明年一月火入シ之ト同時ニ、現在操業中ノ第九高爐ハ休止ノ豫定ナリ

松尾 岩手

硫黃製鍊竈一基ヲ増設

沼尻 福島

硫黃製鍊竈二基増設

宮山田 栃木

金製鍊場ヲ新設シ一ヶ月ノ取扱鑛石二十萬貫ノ豫定ナリ

足尾 同

一號二號熔鑛爐ノ改造ハ完成セリ亞砒酸工場ニテハ亞砒酸精製爐一基ヲ増設セリ

日立 茨城

羽口炭トシテ塵炭使用ノ試験成績良好ナリシヲ以テ九號爐ニモ使用ヲ開始シ塵炭場（既設ノモノト同一能力）ヲ増設セリ

神岡 岐阜

鉛熔鑛爐前ニ「スラッグクリーナー」壹基ヲ新設シ電鍊電解槽十個ヲ増設セリ又從來ノ

生野 兵庫

手動起重機ヲ電力走行起重機ニ變更セリ

野 兵庫

錫製鍊第二號反射爐ヲ「オイルバーナー」ニ變更シ又第二「コットレル」收塵裝置（一

別子 愛媛

分間處理瓦斯量五、〇〇〇立方尺）ヲ増設セリ
亞砒酸製鍊ニ於テハ燒鑛反射爐一基ヲ増設セリ
粉鑛處理ノ爲「グリーナーワルト」式燒結機三臺ヲ新設シ「グレートフォールス」型鹽
基性轉爐一基「ターボローワー」一臺ヲ増設セリ又熔鑛爐羽口ニ於テ微粉炭使用試驗
中ナリシガ成績良好ニシテ來年度實施ノ豫定

尾小屋 石川

眞吹床一座増設

富岡 高知

製鍊場新設ニ着手粗銅一萬斤產出ノ豫定ナリ

鯛生 大分

給鑛機「コンカルポールミル」(徑八呎七吋)「クラッシファイアー」(長一五尺)「シッ
クナー」(徑二四尺及二八尺)各一臺ヲ増設シ又硫化物採收ノ爲「ゼームステーブル」一
六臺ヲモ増設シ從來ノ「カンバステーブル」ヲ廢セリ

山野 鹿兒島

水車二臺鹿兒島式搗鑛機杵數四〇本、青化桶一〇個「ウインチ」一臺「ポンプ」三臺ヲ有
スル製鍊場ヲ新設セリ

大良 同

杵二〇本立ノ水車製鍊場ヲ新設

三井串木野 同

埵塙用回轉式重油爐一臺ヲ新設

山ヶ野 同

「コンカルポールミル」(徑七尺)複式「ドアークラッシファイヤー」(巾四・五呎長一五
呎)各一臺増設

●製油 新潟縣柏崎製油場ニ於テハ二百馬力外焚多管式汽罐同附屬煙突一基及揮發油洗滌槽(張込容量一五〇石)一基ノ建

設ニ着手シ又既設工場東方ニ隣接シテ揮發油精溜釜(張込容量一〇〇石)二基、揮發油受槽八基、揮發油荷造場一棟ヲ増
設セントシ工事中ナリ

新潟製油場ニ於テハ揮發油採取裝置ニ改善ヲ加ヘ壓搾及吸收法トシ以テ品質ノ向上ヲ計レリ

●鑛害除去設備 鑛業ノ發展ニ伴ヒ鑛害問題ハ益々擴大シ喧シクナル傾向ニアリ鑛山ニ於テモ之カ除去ニ關シテハ銳意其
設備ニ腐心シツヽアリ

本年度ニ於テ設備ノ改修又ハ新設シタルモノ左ノ如シ

鑛山名 府縣名 又ハ國名

記

事

鴻ノ舞 北見

從來ノ沈澱池ヲ改修シ容量ヲ増加セリ

光珠 石狩

選炭廢水ノ水田ニ流入スルヲ防ク爲沈澱池及濾過池ヲ作り廢水ヲ循環使用シ得ル裝置ト
セリ

土畑 岩手

沈澱池(三三、六〇〇立坪)ヲ増設工事開始セリ

水澤 同

沈澱池新設

花岡 秋田

澱物汲上裝置ヲ増設シ鑛水除害用石灰竈一基ヲ築造セリ

吉野 同

「ドアシックナー」(徑五〇尺)ヲ増設シ附隨「バケットエレベーター」一個並ニ乾泥
池(一六、〇六三立方尺)ヲ新設セリ

足尾 枋木

前年ヨル工事中ナリシ試驗用電氣收塵裝置完成

柵原 岡山

工事中ナリシ沈澱池一個及乾泥池一個及濾過池二個ハ完成セリ

鯛 生 大分 「ドアシツクナー」(徑五〇尺)「フィルター」「バケットエレベーター」(三〇尺及七五

尺)及築堤沈澱池完成シ鑛滓ノ流失ヲ完全ニ防止シ得ルニ至レリ

●發電所 機械力ノ應用増加ニ從ヒ動力電化ノ傾向ハ益々顯著ナルモノアリト雖モ一方電氣事業ノ發達ニ伴レ買電漸増シ自家發電ニ依ルモノ漸次減少ノ趨勢ニアリ今年度中發電設備ノ擴張又ハ新設ヲナセル主要ナルモノ左ノ如シ

鑛山名	府縣名又ハ國名	容 量	原動力ノ種類	備 考
夕張	石狩	交流 七、五〇〇 アンペア 五〇〇	水 力	十五年二月完成ノ豫定
美唄	同	同 四、五〇〇	同	
茂尻	同	六二五 同	同	
雄武	北見	三〇 同	瓦斯發動機	
靜狩	膽振	五〇〇 同	同	一五〇「キロボルトアンペア」ヲ廢シ擴張
尾去澤	秋田	一、〇〇〇 同	同	新設
小坂	同	五〇〇 同	同	同
土畑	岩手	一四〇 同	同	同
沼尻	福島	三、〇〇〇 同	同	同
内郷	同	一六〇 同	同	同
大谷	同	同	同	新設

神岡	岐阜	五〇〇 同	同	四〇〇キロワットヲ擴張變更セリ
三細	徳島	七五 同	同	新設
別子	同	三、六〇〇 同	同	同
二瀬	福岡	一五 同	同	同
住友大瀬	長崎	二二五 同	同	同

●汽罐、汽機及蒸氣「タービン」 燃料ヲ自給シ得ル石炭山、石油山ニ在リテハ尙汽罐、汽機、蒸氣「タービン」ニ依ラン
トスル傾向ハ依然衰ヘス爲ニ其新設或ハ増設ヲナセルモノ多シ即次ノ如シ

鑛山名	府縣名又ハ國名	種 類	樣 式	大 徑	高 さ	馬 力	臺 數	備 考
茂尻	石狩	汽 罐	直 立 式	四・〇六 呎	一〇・〇五 呎	一〇〇	一	五 扇風機用一、發電用一、捲揚用三
歌志内	同	同	同	四・〇八	一〇・〇五	一〇〇	一	三 發電用
同	同	同	同	三・〇七	八・二	一〇〇	一	四 選炭用、捲揚用
同	同	同	同	六・五	二八・〇	一〇〇	一	二 同
同	同	機	横置双汽筒式			三〇	一	一 捲揚用
同	同	同	同			三〇	一	同
同	同	同	同			三〇	一	同
同	同	同	同			三〇	一	同
同	同	同	同			三〇	一	同
同	同	同	同			三〇	一	同

日吉	中山	大谷	南里	楠木	松浦	大木
福岡	同	同	同	同	同	同
汽	同	同	同	同	同	同
ランカツシヤ式	同	同	同	同	同	同
六〇六	三〇四	七〇〇	七〇〇	七〇〇	六〇〇	六〇〇
一	一	一	一	一	一	一
發電用						

(三) 新ニ事業ニ着手シタル鑛山

新ニ事業ニ着手セル鑛山ニシテ主ナルモノヲ列記スレハ左ノ如シ

高峰鑛山 北見國試登 第三〇二號 金、銀、銅、北見國紋別郡紋別道標村 南嶺一郎

七月ヨリ露頭下約四〇尺ノ地點ヨリ豎入坑道ノ開坑ニ着手シ延長八四尺ニシテ着鑛シ鑛幅一一尺二寸金ノ平均品位十萬分ノ二ナリ更ニ其レヨリ約七〇尺下底ニ豎入坑道ヲ開坑シ目下掘進中ナリ

俱知安鑛山 膽振國探登 第一三號及第一四號 鐵 膽振國虻田郡東俱知安村 株式會社日本製鋼所

久シク休業中ナリシカ七月再着手ノ準備ニカ、リ九月ヨリ露天掘ヲ開始シ出鑛量一日一五〇噸品位ハ上鑛鐵五六%下鑛鐵四五%ニシテ鑛石ハ其ノ儘室蘭輪西製鐵所ニ送リテ製鍊ス

北見試登第二〇一六號 金、銀、銅、北見國紋別郡雄武村 瀬川良作

三月ヨリ豎入及鑛押坑道ヲ開鑿シテ探鑛ニ努ムルト共ニ鑛夫共同飯場一棟、鑛夫長屋一棟、火藥庫二棟、及鑛石貯藏場

一棟ヲ新設セリ

永壽鑛山 後志國探登 第一號 硫黃 後志國磯谷郡南尻別村 井坂圭一郎